

## 平成29年度の管内の動き

### イチゴ栽培でハダニ防除に天敵利用が広がっています

施設イチゴ栽培では、近年ハダニの防除に苦慮しています。そこで、農業改良普及課では、天敵ミヤコカブリダニと天敵保護シートからなる資材ミヤコバンカーの防除効果について試験しました。

ミヤコバンカーを10月中旬に設置したところでは、2月までハダニの発生を抑えることができ、殺ダニ剤の散布回数は、前年に比べ約1/3に減りました。また、定植前に炭酸ガスによる防除処理を行い11月中旬にミヤコバンカーを設置したほ場では、3月までハダニの発生を抑えることができました。このため、今年は、ミヤコバンカーの利用が拡大しています。

農業改良普及課では、今後も施設野菜の生産力向上に向けた支援を継続していきます。

ほ場に設置した  
ミヤコバンカー



### 集落で取り組むサル侵入防止対策

豊田市蘭町（下山地区）では、昨年度末に集落でサル侵入防止対策を話し合い、今春に電気柵とネットフェンスをほ場に試験導入しました。

農業改良普及課はJAと共に、監視カメラで侵入防止効果を調査し、12月に集落で侵入防止柵の効果報告会を行いました。

報告会では、サルの行動を画像や動画で分かりやすく説明したところ、電気柵の侵入防止効果について、参加者の理解を得ることができました。

今後集落では、農家自身がサルの被害に関する情報を改めてマップ化し、被害の多いほ場を中心に電気柵の導入拡大を進めることになりました。

農業改良普及課では、調査を継続しながら、集落でのサル侵入防止対策を支援して行きます。



効果報告会

ネット前でたむろする  
サル



### 頑張る女性農業者への支援

農業改良普及課では、女性農業者の社会参画・経営参画を推進しています。

農村生活アドバイザー豊田みよし支部が実施した市・JAの幹部職員との農政懇談会では、地域農政と農業経営に係わる情報交換と、女性農業者の声を伝える活動を支援しました。なお、会員の昨年の活動実績は、8割以上が社会参画活動を行いました。

輝きネット・豊田加茂には、「農村輝きネット・あいちの技人(以下、技人)」の認定を推進し、現在管内では20名が認定されています。管内の技人の活動により、例年1,300名もの消費者に食と農の魅力を伝えています。

若手女性農業者組織(あぐりmama)に対しては、農業経営への早期参画を目指して毎月研修会等を開催し、経営管理能力の向上を図りました。

農業改良普及課では、女性の積極的な活動による地域農業・農村の活性化を目的として、ライフステージに合わせた活動支援を行っています。

### トヨタファームがエコフィード優良事例表彰で優秀賞を受賞!

豊田市で養豚経営を行っているトヨタファーム(代表: 鋤柄雄一氏)が、「エコフィードを活用した畜産物生産の優良事例」として表彰されました。エコフィードは、食品残さ等を原料として製造した家畜飼料のことで、近年注目されています。

トヨタファームでは、この飼料をいち早く導入して高品質な豚肉を自社ブランド『三州豚』として有利販売し、地域の資源循環に取り組んできました。今回、これらの取組が評価され、優秀賞(中央畜産会会長賞)を受賞しました。

農業改良普及課では、エコフィードの給与方法の適正化や、6次産業化等による経営改善を支援してきました。今後も、都市近郊に立地する当地域の特徴を活かした経営改善を支援していきます。



前列左から2・3番目が  
鋤柄夫妻